

同窓會報



第 7 号

'89. 12. 15

豊橋技術科学大学同窓会

同窓会会員の皆様へ

豊橋技術科学大学同窓会名誉会長 学長 本 多 波 雄

本学の同窓会が発足したのは、昭和57年のことですが、この年は、大学院修士課程の第1回生が誕生した年でして、それから早くも7年余が経過したことになります。この同窓会報も、同じ年の11月に、創刊号が発行されており、今回は第7号になるときいています。同窓会も、会員数が2000名を越え、名簿の作製や、卒業式後の記念パーティの主催など、会員の連絡や親睦のために、多大の貢献をされており、大学としても、深く敬意を表しているところであります。

同窓会報には、毎号、大学の近況を報告することになっていますので、本号でも、前回以後の主な出来事について、簡単に紹介させていただきます。

まず、特筆すべきことは、平成元年3月23日、本学としては最初の大学院博士後期課程修了者に対する学位授与式を行ない、10名の工学博士を誕生させたことであります。昭和61年、材料システム工学とシステム情報工学の2専攻をもって発足した博士後期課程は、翌年、総合エネルギー工学課程を加えて、当初の計画通り順調に経過し、今回、初年度に創設された2専攻より、修了者を出すことができました。これにより、今後は、課程によらないでも、学位論文を提出し、合格した方には、工学博士の学位を授与できるようになりました。皆様におかれても、学位取得の可能性があるような状況になられた時には、しかるべき先生に御相談されるとよろしいかと存じます。

同じ日に、第8回大学院修士課程修了者として、243名の工学修士と、第10回学部卒業生として、329名の工学士を世に送り出しました。同窓会も、新たに多数の会員を加えて、ますます発展されることと期待しております。

3月末日をもって、第7工学系の折下功教授が停年退官され、名誉教授の称号を受けられました。折下教授は、昭和55年2月に、本学に着任され、爾来9年余にわたって、本学の特色の一つである計画・経営科学に関する研究・教育に、中心となって活動されました。ここに、その御貢献に対して、心から謝意を表するものであります。

4月に入り、10日に入学式を挙行し、学部第1年次入学者111名、第3年次入学者294名、大学院修士課程入学者285名、同博士後期課程入学者

29名を迎えました。前回の会報で述べましたように、昨年度より、新たに知識情報工学課程が設置されましたが、昨年は第1年次入学者があっただけで、第3年次入学者は、本年が始めてのことです。上記第3年次への入学者のなかには、この新課程への入学者42名が含まれています。



知識情報工学課程への第3年次入学定員は40名ですが、そのうち10名分は、物質工学課程からの振替によって賄なわれ、その結果、残念ながら、物質工学課程の第3年次入学定員は30名となってしまいました。以上のような経緯で、現在の学部入学定員は、第1年次100名、第3年次270名に達しています。この人数は、大講義室にも収容不可能です。止むをえず、本年は、入学式の会場を学外に移し、勤労福祉会館において行なう仕儀となりました。講堂の建設と取組むべき時期が来たかと思っております。

7月17日から、約3週間にわたって、「高等専門学校情報処理教育担当者上級講習会」が、本学会場にして行なわれた。ご存知のように、情報技術者の極端な不足が予測されており、その数は数十万人に達するだろうと言われております。高等専門学校においても、近年、情報関連学科の新設や改組拡充が盛んに行なわれているが、教育を担当する教官の充足は、一朝一夕に行なえるものではありません。文部省では、以前から、上記の講習会を部外に委託して開催していたが、十分な効果はあがらなかったようで、本年は、本学にその実施を依頼してきたのであります。

募集人員40名に対し、35校から41名の参加があったが、そのうちの10名近くは本学出身者であり、ここでも同窓会会員の活躍を目の当りに見る思いがしました。

本学が留学生の受入れを活発に行なっていることは、ご承知のとおりです。すでに多数の留学生出身者が本会の会員になっており、このことは同窓会の国際化にも一役買っていることと思っております。留学生の数は、10月1日現在で、在籍者が98名、入学

予定者が13名に達している。昨年、国際交流会館が増築されたが、たちまちオーバーフローしてしまいました。

私事になって恐縮ですが、私は、平成2年3月末で、学長職を6年間勤めたことになり、本学の内規にしたがって退任いたします。これまでに同窓会より寄せられました御支援・御協力に対し、心より

御礼申し上げます。また、この会誌が発行される時点では、次期学長が内定していることと思いますが、その方に対しましても、私同様に、御厚情を賜りますよう御願ひ申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の一層の御発展と、会員の皆様の御活躍をお祈りして、挨拶といたします。

学 内 近 況 報 告

エネルギー工学系

卒業生・修了生の皆さん毎日お勤め本当に御苦労さまです。仕事にも慣れて職場でも何人かの部下の指導を任せられ、家に帰れば帰ったで女房と子供の面倒を見ている旧卒者がた、会社に入りたてで何をやっても気疲ればかりしている新卒者がたへ、心より同情とエールを送らせていただきます。なあと世の中、そんなに考えるほどつらくもなければ甘くもないよ、といった所でしょうか。さて恒例となりました学系だよりです。毎回同じで恐縮ですがまずはここ一年間の教官の動きからお知らせします。

任期制教官として高松高専からおいでになった石原弘一先生が平成元年3月31日付で古巣の高専へ帰任されました。同じく大竹先生の下で教務職員として御活躍されていた井田民男氏が、私立熊野高専機械工学科助手として転出され、入れ替って名古屋大学大学院博士課程を修了された成瀬一郎先生が助手として4月1日付で赴任されました。一講座の三田地先生が教授に、柳田先生が講師にそれぞれ昇任され、三講座の埜、畔上、関東各先生が揃って講師に昇任されました。また三田地先生は文部省在外研究員として本年9月1日より10ヶ月間の予定で、アメリカのミシガン大学へ出張されています。以上が主な教職員の移動でした。

生産システム工学系

昭和63年10月より1年間の生産システム工学系の状況を述べます。教官の移動は、塑性加工研究室の牧先生が1月1日付で、そして材料保証研究室の新家先生が4月1日付で助教授に昇任されました。また、本学のシステム情報工学専攻を3月に修了した猪股先生がシステム解析研究室の助手に採

北 村 健 三

一方学生の方の動きですが、本系と関連の深い大学院博士課程総合エネルギー工学専攻が設置されて2年余り経過し、今年度もエネルギー工学修士課程から3名の進学者が有りました。明年3月には総合エネルギー専攻初の博士が誕生の予定です。論文博士も再来年から授与可能となりますので、会社等で博士号に値する研究を行なっている方々は是非目標の一つに加えて下さい。

学生の就職状況ですが、ここ数年の異常とも言っているほどの好況にも恵まれ絶好調です。学系で50名程度の求職者に対し、約800社1000名以上の求人が有ります。工学部卒業者の製造離れが世間でも問題となっていますが、本系でサービス産業へ就職する者は例年2、3名に過ぎず、まだまだ製造業優位の状況にあります。また引く手あまたの就職状況の中、就職勧誘に毎年多くの卒業生が母校を訪問されますが、その折には是非勤務先所属部署、自宅住所等をメモの形にして研究室に残しておいて下さい。後で同窓会名簿を作成する際に役立ちます。

教職員一同卒業生の皆さんの御健康と御活躍を心よりお祈りして結びとします。また暇が有りましたら気軽に母校の研究室へお立寄り下さい。

池 田 徹 之

用されました。これで、本系修了者の教官は、工作センターの江崎先生を含め3名です。6月1日には、工作センターの山崎先生が新設の知識情報工学系の助教授に配置替えとなり、その後任助教授に接合加工研究室の梅本先生が就かれました。系事務においては、長年担当されてきた小柳津さんが技術開

発センターへ配置替えとなり、女性事務官の三輪さんが系事務の仕事がされています。同窓会諸君が本系を訪れられた際には、知らない先生方が多くなったと感じられることと思います。そこで、以下に生産システム工学系の教官一覧を記します。

[材料工学大講座] 教授：伊藤公允，湯川夏夫(系長)，小林俊郎，川上正博，助教授：森永正彦，池田徹之，新家光雄，助手：村田純教，横山誠二

[加工学大講座] 教授：岡根功(系長補佐)，星鉄太郎，中村雅勇，助教授：堀内宰，梅本実(工作センター)，牧清二郎，助手：福本昌宏，教務員：福田耕治

[生産計画学大講座] 教授：北川孟，西村義行，野村宏之，助教授：阪田省二郎，小野木克明，講師：寺嶋一彦，助手：森田啓義，猪股俊光

このように、本学の開学年度からの教官は、私を含めて伊藤、川上両先生の3名となってしまいました。福本生は、文部省在外研究員として10月上旬から10ヶ月間カナダのシェルブルック大学へ長期外国出張されます。

就職状況ですが、本年度は、昨年度の555社をさらに100社上回る645社もの企業から求人があり、学生1人に10社以上という求人ラッシュです。これは、本系修了者が他大学においては見られないカリキュラムを修学した技術者であり、現在、「材料工学」，「機械工学」，「システム工学」に

わたる広い分野の専門を備えた優秀な人材が多くの企業から求められているためです。その上、同窓会諸君の活躍が評価されてきたからでもあると思われます。また、4年生3学期に行われている実務訓練でも、生産システム工学課程学生に対する訓練受け入れ機関数は、昨年度の84機関(134名)よりさらに増えて、94機関(123名)です。しかし、東海地方の中堅企業への訓練希望者が多く、各機関の受け入れ数よりも学生数の方が多機関もあるようです。

本年3月には、博士課程修了者(10名)が初めて誕生しました。本系出身者としては、猪股俊光君が「離散事象系のモデリングと解析に関する研究」で工学博士の学位を取られました。現在、材料システム工学、システム情報工学、総合エネルギー工学の3専攻の博士課程に、本系出身者がD1に4名、D2に3名、D3に2名在籍しております。同窓生諸君も、企業等においてかなりの研究業績を積まれた方は、論文博士を、また企業等で研究テーマを見つけられ研究を行いたい方は、本学博士課程に入学して課程博士の学位を是非取っていただきたいと思っております。

それでは、生産システム工学系教職員一同、卒業生及び修了生の諸君の一層のご活躍を期待しています。

電気・電子工学系

同窓会の皆様、元気に御活躍の事と思います。第一期卒業生を世の中に送り出してから早や10年間が経過し、時の過ぎ行く速さを感じるのは、私共教官のみならず、実社会で働いている卒業生とて同じ思いでしょう。豊橋技術大は建設期もほぼ終了して、これからはいつまで続くかわからない安定期に入っているところでしょうか。

1989年10月31日現在の教官スタッフを以下に紹介します。

[基礎電気・電子大講座]

教授：野田保，野口精一郎，藤井寿崇，英貢
助教授：太田昭男，西垣敏，服部和雄
助手：渡辺純二，塚本武彦

[電気システム大講座]

教授：榎本茂正(系長)，小崎正光，榊原建樹
助教授：長尾雅行，水野彰
助手：水野幸男

[電子デバイス大講座]

並木章

教授：中村哲郎(系長補佐)，吉田明，米津宏雄

助教授：並木章，朴康司，石田誠

助手：斎藤洋司，高野泰，川人祥二

同窓会報第6号からの異動は以下の通りです。基礎大講座では、塚本武彦助手が平成元年3月本技科大第一回博士課程修了者として工学博士の学位を取られ、本年四月学生から先生へと立場をかえて、野口研究室にて教育、研究に励んでおられます。電気システムでは、昨年度4系のスタッフへと鞍替になりましたが、彼はその後、静岡大学工学部の講師として栄転され、エネルギー関連の研究を続けられておるそうです。デバイスでは、前中一介先生が神戸高専の講師として栄転され、替りに東北大学から川人祥二先生が助手として着任されました。彼は本学の第4期卒業生です。尚、前中先生は神戸高専に於いても引き続きICの研究に取り組み、今は施設の立ち上げに奮闘中との事です。又、基礎大講座に戻

りますが、野田研の助手をされておった井上雅彦先生が、平成元年7月より名大工学部の助手として転任されてゆきました。名大の方では、イオンビームと固体の相互作用の研究を行われているそうですが、現在でもしばしば技科大の方には顔を見せておられ、学生の研究指導をされています。

若い先生方の移動の多かったこの一年でしたが、

助教以上の古手教官は年を取る事以外の変化もなく、毎日、教育と研究の忙しさに追われている様子です。卒業生の皆様には、リクルートの時のみならず、平素古巣の研究室に立ち寄られ、社会の新しい息吹きを伝えてくれる様望みます。健康には充分留意され、一層のご活躍を祈ります。

(平成元年、神無月)

情報工学系

卒業生、修了生の皆さんは、情報化社会の真っ只中におられることと思います。いかがですか。

- ①とにかく忙しい。(どこも忙しいと思います)
- ②給料が安く転職したい。(大学教官よりは給料は良いはずです)
- ③飲み屋で上司のぐちを言いながらも順応している。(技科大の周辺には飲み屋さえない)
- ④仕事が面白く充実している。(多少なりとも大学教育が役立っているはずです)
- ⑤その他。

皆さんはどれに該当しますか。我が情報工学系の学生に対する求人状況は相変わらずよく、幸か不幸か大半の学生はメーカー希望です。

さて、現在の教職員の構成メンバーを以下に記します。

[計算機大講座]

教授：楠菊信，大岩元

助教授：飯田三郎，中川聖一，今井正治，湯浅太一

助手・教務職員：河合和久，永持仁，山本幹雄

[情報処理大講座]

教授：河竹好一，阿部健一，白井支朗

助教授・講師：橋口攻三郎，辰巳昭治，榊原学，
船橋賢一

助手：前場隆史

[情報システム大講座]

教授：秋丸春夫，宮崎保光，田所嘉昭

中川 聖一

講師：後藤信夫

教務職員：奥田隆史

以上でおお付きのことと思いますが、学生諸君に人気のあった齊藤制海先生が4月に知識情報工学課程の第7系へ教授として配置換えになりました。また、河本映助手が1月に静岡大学工学部電気工学科講師に転出されました。10月には、シャープ(株)から船橋賢一講師が着任されました。

船橋先生は、今ブームとなっているニューラルネットワークの理論解析ですばらしい業績をあげられた方です。第3, 4, 7系には、ニューラルネットワークの研究をやっておられる先生方がたくさんおられ、我国を代表する研究拠点になるかも知れません。(私もやっていることを御存知ですか。近刊予定の「音声・聴覚と神経回路網モデル」(オーム社)を見て下さい。)

博士課程一期生の前場隆史助手は「VLSI 向きアレイ構造アーキテクチャの設計法に関する研究」で工学博士の学位をとられました。皆さんの中で研究職の人は是非論文博士にチャレンジして下さい。(実際に修了生の中で、論文博士の手続きが進んでいる人がいます。)

大学の研究室には、知り合いの学生は数少ないと思いますが、時には後輩・先生を訪ねて来て下さい。教職員一同皆さんの御健康と御活躍を心よりお祈りしております。

小松 弘昌

新たに、青木助教授が7月、服部助手が10月、また、佐藤教務職員が4月に赴任され、物質工学系の教職員の総勢は下記のようにになりました。

5階には、高山教授、小松教授、伊藤(浩)教授、伊藤(健)教授、堤教授、西山助教授、竹市講師、加藤講師、永島助手、伊津野助手、川口教務職員、坂井技官が、4階には、浅田教授、鈴木教授、神野助教授、平田助教授、青木助教授、藤本助手、

物質工学系

まず、人事移動から報告いたしましょう。創立当初から居られた宇井先生が1月1日付けで、沼津高専へ移られ、同日付けにて、私が沼津高専から本学へ赴任しました。赴任早々ですが、学生生活委員と云うことで、系内近況の報告をすることに相成りました。同窓会の皆様には今後共よろしく願いいたしたいと存じて居ります。

加藤先生が4月1日付けで、講師に昇任され、

太田技官が、そして、3階には、稲垣教授、亀頭教授、上野教授、逆井助教授、角田講師、大串講師、立木助手、前田助手、佐藤教務職員、斉藤技官が居られます。

今年、系事前室を4階のコーナーに手を加えて移し、ママになったばかりの伊藤事務官が仕事をされています。また、兼任として、分析計測センターに阿部助教授と服部助手が、体育保健センターにシディキ助教授と安田助手が居られます。

今年の就職状況も好調で、求人倍率は十何倍かになったでしょう。修士課程45名中、就職希望の37名と学部からの就職希望の6名はそれぞれ、第一志望の一流企業に就職が内定して居り、高専や他大学

の助手に採用内定となっている学生も居ります。他の学生諸君は博士課程、修士課程に進学を予定しています。

この4月、初の課程博士が10名誕生し、その中の物質工学関係の院生2名に学位が授与されました。これを始めとして、社会に出て、研究業績を挙げて居られる卒業生の皆様に対しても、論文博士の授与が可能になったわけです。本学も大学院大学の形態が整ってきました。皆様からの学位論文が提出されることを願っている次第であります。末筆ながら、同窓会の皆様のご健康で、益々ご活躍されることを祈って居ります。

建設工学系

平成元年1月からの教室の動きを紹介します。

広島大学総合科学部の講師として栄転された環境講座の開発先生の後任として、名古屋大学土木工学科で助手をされていた和田清(昭和58年本学修士修了)先生が助手として赴任され、四倉先生、中村先生のもとで、研究・教育に頑張っておられます。

3月には、建設工学課程から進学した3人(角舎輝典、僧理栄司、田中勝3氏)が豊橋技術科学大学の博士課程で工学博士の学位を授与されました。4月には国井克彦、金富吉、張建東、金仁具、鄭明採の5名が博士課程に入学し、研究が励んでいます。平成2年3月にも数人の工学博士が建設工学課程の卒業生から生まれる予定です。

10月には事務官の林さんが、建設工学系の事務から学務係にかわり、大石さんが建設工学系にこられました。外部からの連絡のときにはよろしくお願ひします(0532-47-0111, 内線721)。

構造工学講座で1年間、助教授として研究・教育に当たっておられた(講義は英語でされていた)韓桂宗先生は9月に元のHouston大学にもどられました。10月にはその後任として、デンマーク工科大学からMerikov先生が環境講座の助教授として赴任され、本間先生、沢地先生と研究を開始されています。やはり、講義は英語でされるとのことです。

11月には、横尾義貫先生が特別講義のため来学されました。講義には卒業生も聴きにこられ、そのあと、先生を囲んで、卒業生・学生・教官でなかなか懇親会が開かれました。10年の歴史の若い大学の同窓会には前途洋々たるものがありますが、年に1回で同窓会と教室の共催の催しものは皆さんの

加藤 史 郎

後輩である在学生にとっても、きわめて教育的な行事となっています。

今年の就職戦線は学生にはきわめて広く、順調に決まっています。不景気の時だけでなく好景気の時も在学生は先輩のアドバイスも必要としています。後輩の就職に関してご指導よろしくお願ひします。

現在の建設工学課程、建設工学専攻および建設工学系の構成は、以下の通りです。

1年生19名、2年生18名、3年生64名、4年生64名、修士1年39名、修士2年39名、博士1年5名、博士2年3名、博士3年3名。

[構造工学講座] 定方教授、栗林教授、加藤教授、角助教授、河邑助教授、原講師、田坂助手、浅草教務員、新納教務員、金田技官

[計画講座] 紺野教授、小野木教授、三宅教授、渡辺助教授、瀬口助教授、広島助教授、小川助手、山崎助手、森助手、本間(神谷)技官

[環境講座] 四倉教授、北尾教授、本間教授、中村助教授、北田助教授、松本講師、木曾助手、沢地助手、和田助手、片岡(足立)技官

学系長は、栗林先生です。



知識情報工学系

知識情報工学系は、昭和 63 年度に新たに設けられた学系であります。設置後 1 年半しかたっておらず、本会会員は現在 0 といった状態です。しかし近い将来本系の卒業生も皆様の御仲間に入れてもらえることになると思います、本号から知識情報工学系も学内近況報告の中に加えさせていただくことにしました。

知識情報工学系の設置の趣旨については、6 号において本多学長が触れておられるので、ここではその後の状況について述べさせていただきます。

現在 1 年生 11 名、2 年生 13 名、3 年生 42 名、計 66 名の在学学生がおります。1、2 年生は工業と普通高校の出身者が半々です。3 年生は全員高専卒ですが、その出身学科は電気、情報、機械、土木、化学などとバラエティーに富んでおります。来年春には 4 年生を迎え、学部学生が揃います。引き続き平成 3 年度には、修士課程を設置する予定であり、現在その準備に追われております。

現在系の建物はなく、実験室は借り住まい、設備も不十分といった劣悪な環境の中、在学学生は懸命に頑張っております。この辺りの事情は 1、2 期生の同窓生の方々には、自分達の時代と照らし合わせて充分想像頂けるとと思います。ただし、建物は D 棟の西側に土音高く現在建築中であり、平成 2 年、本号が発刊される頃には 1 期工事が完工する予定です。

第 八 学 系

同窓会報 (第 6 号) でお伝えしましたように、「富田先生の死」に遭遇し、8 系一同大きなショックを受けました。月日がたつのははやく、あれから 1 年 2 ヶ月にもなります。8 系の各教官は、富田先生の教育、研究に注ぎこまれた情熱を手本として、今精一励ががんばっています。富田先生と学生の交流の場であった 516 教室は今でも学生に開放されています。間仕切りで狭くなりましたが、中の様子は昔と変わらない感じですが、同窓生の皆様も機会がありましたら是非部屋をたずねてみてください。

1989 年 4 月には 2 人の新しい先生を 8 系は迎えました。ひとりには英語担当野村武先生 (鈴鹿高専から)、もうひとりには国語・国文学担当山内啓介先生 (愛知大学から) です。鈴鹿高専出身の同窓生の方々には、野村先生の名前を聞くと、高専時代を思い出されるのではないのでしょうか。また 10 月には社

斉 藤 制 海

ここには 50 台の EWS、複数台のサーバを備え、スペース的にもゆったりとした計算機演習室など新機軸のインテリジェントビルになる予定です。完成を楽しみにしております。

教官陣は全国から優秀な人材を招くことができ、順次着任いただいております。現況は以下のとおりであります。() の中は他所から着任された教官の前職であります。

[情報科学大講座] 教授：斉藤制海、助教授・講師：太田敏澄、増山繁 (京大助手)、助手：中山雅哉 (東大院生)

[分子情報大講座] 助教授・講師：宮下芳勝、高橋由雅、助手：船津公人

[機能情報大講座] 教授：吉田辰夫 (NHK 基礎研)、助教授：山崎和雄

知識情報工学系は、以上の三大講座からなっておりますが、学内組織的には旧 7 系の計画経営も本系に属することに改組されました。これに伴い現在、鈴木康教授、朝日譲治、氷鉦揚四郎両助教授も我々とともに本系の教育研究を行っております。

1 年後には学部卒業生、3 年後には修士修了生を社会に送り出すことができると思います。本会会員の先輩諸兄はこれら本系の新会員を暖かく見守ってくれることとともに、新しくできた学系を是非訪れてくれることを願っております。

西 村 政 人

会思想史・フランス語担当小杉隆芳先生も加わり、やっとスタッフが全員そろいました。

豊橋技術科学大学は、1989 年 4 月より知識情報課程に 3 年生を迎え、また博士課程後期修了生も 3 月に誕生するなど、ますます発展の道を歩み続けています。このような中で、8 系の教官も新たな詩を綴らなくてはいけないと考えています。学生の疲れた心を癒し、自分の「哲学」を紡ぎだす、そんな深く静かな森に 8 系がなれたらと思います。そして、その森に同窓生も訪ねてくれることを夢見つつ、ペンを置くことにします。

Free Talking 同窓会員各地の便り

(会員番号は以下に示す通り。
 6桁 → M: 修士修了 B: 学部卒業 3桁 → 所属工学系(1~6)
 5, 4桁 → 修了・卒業年(西暦) 2, 1桁 → 通しナンバー)

「近況報告」

B87205 神保知余

ヤマハ(株)

社会人も3年目を迎え、忙しい毎日を送っています。

私は、浜松のヤマハ(株)に勤務しています。現在、プロオーディオの機構設計を主にしています。既に私が手懸けたものが2機種発売されています。製品の設計をしている時は、忙しくてこんな毎日がずっと続くのかと、憂うつになります。でも、自分の作った製品が雑誌に載ったりすると、うれしくてそんなことも忘れてしまいます。ただ、プロ用の為、専門店以外であまり扱っていないので、店頭で見られないのが残念です。

現在、私の会社では約20人の女性技術者がいます。女性の技術者が本格的に入社して5年ほどになります。ですから、まだ働きやすい環境といえるほどではありません。原因はわかりませんが、既に辞めてしまった人も事務系の女性と比較すると多いです。やはり、男性の分野に女性が入るためには、周囲の理解が必要だと思えます。もちろん、私の会社でも女性に期待をしてくださる方もいますが、まだまだ理解してもらえない人の方が多いようです。特に女性に理解してもらえないことが一番つらいですね。理解してもらっているかどうかはわかりませんが、年配の女性に、私から仕事を頼むということは、なかなか勇気がいります。

それから、男性。ちょっと仕事の手を緩めると、「やっぱり女だから」、「女はいいよな。気楽で」とか、会議でちょっと発言すると、「生意気だ」、「気が強い」とか言う人。心あたりのある方いませんか。これは、割と若い人に多いのですが、失礼だと思えます。

まだまだ色々あるけれど、女性のみなさん、負けずにがんばりましょう。

半分、愚痴になってしまいました。すみません。

女性の時代といわれますが、これが現状だと思います。早く、女性技術者の働きやすい雰囲気になるように祈って近況報告を終わります。

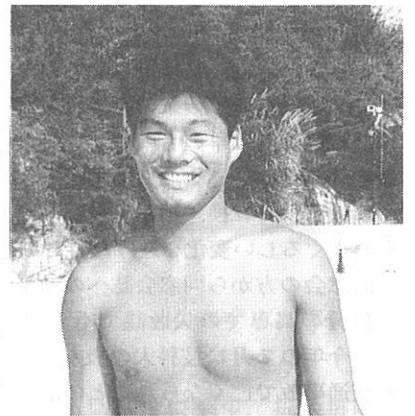


「私の近況報告」

M89205 井上淳司

マツダ(株)

盆休みに帰省していたところ、同窓会の編集委員長より原稿の依頼があった。さて困ったものだと思いきや、この紙面を借りて私の近況報告でも兼ね



させて頂こうと思いきや、ペンを走らせています。

早いもので大学を修了してはや半年がたとうとしています。4月より自動車メーカーであるマツダ(株)に就職した私は社会人1年生として頑張っています。我社では新入社員は、半年間の現場実習があるため現在まだ現場の方で働いています。しかし、同窓会誌が発行される頃には実習も終り情報システム室の方で働いているのではないかと思います。一口に現場実習と言っても、経験された方ならわかるでしょうがなかなかつらいものがあります。特に我社では昼夜2交替であるため、夜勤での実習はつらいものがあります。何がつらいかと言えば、まず睡眠との戦いであり、また暑さとの戦いでもあります。特に夏場はそれはもう言い表せないほどのつらさでし

た。だが、このつらい現場実習もあと残りわずかであり、実習の終る日がひたすら待ち遠しい毎日です。しかしながら、今は肉体的疲労がメインであるが、これからは精神的疲労がメインになるのではないかと思われ、かえってそちらの方が大変だなあと思っています。現在、自動車メーカーは国内だけでなく国外も含め日々刻々と変化してきているように思われる。弊社もこれに乗り遅れないように、また私自身も自分の能力を最大限に発揮し頑張っていきたいと思う。

さて話は変わるが、最近結婚のシーズンのせいが高専時代の友人より結婚の報告がちらほら聞かれる。私自身も今年で25であり、そのような話を聞くと自分の歳を痛感してしまい若干学生が長すぎたのかなあと思う。しかしその反面、学生の間にはかできないことを数多く経験し大変よかったのではないかと考えている。

「級友の思い出」

B86305 清 田 公 保

熊本電波高専

恩師の先生方、同窓生の皆様、如何お過ごしでしょうか。現在、私は母校であります熊本電波高専にて教職に就き、後輩の指導にあたっております。月日の経つのは早いもので、技科大を卒業してまもなく3年半が過ぎようとしています。この間、学生から教官への転換、結婚、長女の誕生と人生の中でもめまぐるしい変化を遂げた時となりました。

同窓会の方から同窓会誌への執筆依頼があったとき自分の高専での失敗談でもと思っていたのですが、今年の7月に技科大の級友であったS君が不慮の交通事故で亡くなられたとの訃報に接し、哀悼の意味を込めて彼との大学時代の思い出を語らせていただくことにします。

私もS君も高専からの編入組で、彼は茨城高専の出身でした。S君は、親しみやすい性格のためか誰とでもすぐに打ち解けて話しができる人で、部屋が同じ学生宿舎の5階と2階ということもあって、よくお互いに行き来したものです。当時の私達のクラスにはいろいろな個性を持った人が集まっていたのですが非常にまとまりがよく、宿舎の談話室ですぐ「飲み会」が始まったものでした。そんな中でS君がリーダー（彼は、なぜか総本山と呼ばれていました）となり「いなせ研究会」なるものを発足させました。これは、彼の持論である“男は、いなせでなくちゃいかん”という趣旨を反映したものです

が、実際の活動といえば、飲み会、ツーリング、海水浴、技科大祭での「ガラクタ市」の来店など（私の影響のせいかな飲み会がほとんどでしたが）気の知れあったものどうしてワイワイ騒ぎながら皆で何か一つのことをやろうというサークルでした。

なかでも、「ガラクタ市」のときは大学の周りの下宿や民家を回りガラクタ集めに奮闘したのですが、集まってきたのは、お歳暮でもらったという石鹸のセット、家に飾ってあった額、会社で新開発したというバイクの荷ゴムなど、どれも新品ばかり。なかには、何もあげるものがないと子供のおもちゃをとりあげて渡そうとしてくれたおばちゃんや、ガラクタ市の超目玉にと農家の納屋からバイクを出してきてくれたおじさんなどもいて、このときほど豊橋の人の気前のよさ、人柄を感じたことはありませんでした。

卒業後、全国に散らばってしまった今でも、このときの仲間とは出張の時など連絡し合い、集まっては飲むようにしています。私が去年の秋、出張で東京にいった時も何人かの友人達が集まってくれました。もちろんS君も彼の好きな大型バイクで駆けつけてくれ、朝方まで大学時代の話で盛り上がりました。そして、それがS君との最後となったのです。

今でも、ふいにレーシングスーツをまとった笑顔のS君が「俺よー、ツーリングの途中に九州まできてやったぜえ」と私のまえに現われてきてくれそうな気がしてなりません。ここにS君の御冥福をお祈りしたいと思います。



サッカー部OB会のお知らせ

隔年で開催しておりますサッカー部OB会も今回で4回目を迎えます。

例年通りゴールデンウィークということになりますが、他の予定はいれずに、あけておいて下さい。

詳細は未定ですが、後日お知らせいたします。

日程：'90年5月3～6日の間（1泊2日）

(1)長岡定期戦の観戦及び応援

(2)現役との交歓試合

(3)宴会（現役も交じえて）

* 1泊して、翌朝朝食後解散

* 都合で宿泊ができない方は(1)、(2)のみの参加も可。

費用：1万円以内（宿泊料込）

備考：家族同伴可

一昨年以降に、就職した方及び住所変更のある方は、下記まで御一報下さい。

〒467 名古屋市瑞穂区姫宮町2-75-2
ネオ新端201

☎052-852-5307

T U T サッカー部OB会
幹事 安藤 智明



求む投稿・表紙！！

■ 投稿

23字／行 横書き 厳守

その他：内容・長さ等は問いません。写真も添えていただければ幸いです。

随時、受け付けますので下記まで送付下さい。

〒440 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学内

// 同窓会事務局

同窓会誌 編集係

■ 投稿を依頼した皆様へ

期限を過ぎても受け付けます。

机の片隅で返信用封筒が泣いています。

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員会からのお願いです。

■ 表紙

写真、絵、グラフィックデザイン等何でもOK!

・サイズ：B5版程度に縮小、拡大可能なもの。

※CM的な要素のものを除く。

採用の場合は薄謝を送付致します。

※送付先：同左

同窓会事務局より会員の皆様へ

ご挨拶

豊橋技術科学大学同窓会会長

B83316 西 澤 一

この会報が、会員の皆様のお手元に届くのは、賑やか、かつ慌しい年末か、静かに、新しき志しに燃える年頭であると思います。母校を巣立ってからの皆様の毎日は、いかがですか？ 日々充実したものであると想像しますが、忙しさの余りに何かを見失っていることはありませんか。ときには、慌しい毎日から離れて、昔の仲間を思い出してみることも、人生の安らぎになるのかもしれませんが。そんなときの皆様のお手伝いを、少しでもできれば良いと我々は考えています。

同窓会活動は、本年で8年目を迎えます。この会報の他の記事で紹介されておりますように、本年10月8日には、母校技科大にて第4回の総会が開催され、新しく平成3年度まで3年間の活動の骨格が決定されました。役員会の構成は、副会長の鈴木(伸)さん、安藤さん、事務局長の江崎さんなど過去3年間と変わらず、このメンバー構成で延べ6年の活動をして行くことになりました。どうぞよろしくご協力お願いいたします。

総会に出席出来なかった皆様の為に、総会の報告を兼ねて、過去3年間の活動を振り返ってみたいと思います。

この3年間は、同窓会の基本活動である名簿整備を今後も安定して行って行くための活動に終始してきました。なにしろ3年前に発行した同窓会名簿第1号は、大学の創立10周年という好運な偶然の産物と言っても言い過ぎでは無いほど、教職員の皆様のお力に依存したものだからです。同窓会単独の力では、決してあのような充実した名簿があの時期に発行できなかったでしょう。今後も大学の協力を必要とすることは変わりありませんが、おんぶにだっこの状態だけは抜け出さねばなりません。

そのために行なったことは、会員名簿データベースの構築と、維持更新の体制作りです。会員名簿データベースは、上記会員名簿第1号編集の過程で、4系の大岩研究室の力をお借りして構築したもので、約1500名分の会員情報が記憶されました。現在では、約2500名に増えた全会員の情報が登録

され、皆様からお送り頂きました会員カードに従って更新、維持されています。現在も、お送り頂きました、同窓会名簿第2号購入申し込みカードに記入された更新情報に従って、最新情報の入力作業を事務局にて行なっています。

昭和61年度から63年度にかけての同窓会支出に大きな割合を占める設備費は、主にこのデータベースを維持更新するためのパーソナルコンピュータ(3台)およびデータベース管理ソフトの購入に使いました。また、人件費の大部分は、会報の発送作業、及び、名簿データの登録、更新作業をお手伝い頂いた方々(主に在学生の皆さんですが)へのお礼です。これら設備、および更新・管理体制の整備によって今後の同窓会会員名簿は、ますます正確に、かつ充実したものになると考えています。

昭和62年より工作センターの江崎先生を役員に迎え大学内に事務局を設置できたのも、大きな進歩と言えます。本年から、計算機センターの奥山先生も役員会に復帰してくださり、活動の基盤となる学内の組織がしっかりしてきました。(過去に学外の役員だけで細々と活動を続けてきたことを思い起こしていただければと思います。)

今後の3年間は、今までに築いた体制を基盤として、会計面での管理をしっかりさせると同時に、年間活動の中心である会報の内容充実をメインのテーマとして活動して行きたいと考えます。

会員の皆様にも、同窓会に対する希望、提案や会報への投稿等をどしどしお送りくださり、(会報に閉じ込みの会員カードもご利用ください)同窓会活動にご参加下さいますようお願い申し上げます。



■同窓会事業報告 (昭和61年から63年度)

1. 会員名簿2号の発行 (実施中)

平成元年8月発行の計画であったが、準備の遅れあり、平成2年4月末の発行に延期する。

配布価格2000円にて、本年9月より購入案内を会員に送付、10月8日現在約500部の予約注文あり。

2. 会報の発行実績 (目標達成)

昭和57年度：1号、昭和57年11月29日発行
全50頁、投稿者11名
昭和58年度：2号、昭和58年9月1日発行
全17頁、投稿者9名
昭和59年度：新入会員名簿編集できず、未発行
昭和60年度：3号、昭和60年12月15日発行
全26頁、投稿者9名
昭和61年度：4号、昭和62年1月15日発行
全40頁、投稿者27名
昭和62年度：5号、昭和63年1月15日発行
全44頁、投稿者14名
昭和63年度：6号、平成元年3月1日発行
全46頁、投稿者5名
平成元年度：7号、平成元年12月中旬発行予定
(本号)

昭和60年以降は、毎年、会報を発行している。編集担当役員の努力と、名簿のコンピュータ化(新卒会員名簿作成)が、昭和61年度以降の良好な会報発行実績の理由と推定している。

但し、年々、発行日が年度後半にずれ込んでおり、また、寄稿者の数が減少している。会報の発行時期は、現住所不明の会員の帰省先への送付を考慮にいと、正月休暇前の12月発行が望ましく、また、寄稿文の減少を補うべく、編集方針の見直しが必要かもしれない。

3. 評議委員会の開催 (未実施)

原案が、検討不十分で詳細が詰められておらず、現在保留中。

4. 第4回総会開催、親睦会の開催 (一部未実施)

総会は、平成元年10月8日開催。親睦会は未実施(総会への出席者が少なく(第3回総会への出席者は7名)では、開催の意義が疑問のため、また、現在の役員会の業務遂行能力では、開催困難と判断した)。

5. 事務合理化、名簿管理のコンピュータ化 (目標達成)

会員名簿は、昭和61年に、小山氏(当時、大岩研修士1年)作成のデータベース管理ソフトにより作成、管理している。名簿第1号および、会報に添付の新入会員、異動会員名簿は、本データベース出力をデータコンバートして使用している。

昭和61年の会則改正にともない、年会費を徴収することになったが、入会金および年会費納入状況の管理のために、大学計算機センターの奥山氏(5系1期)を中心として、管理システムの改良を計画している。

6. 大学内への本部の設置 (ほぼ達成)

学内に事務局(事務局長は、工作センターの江崎先生)を設置、会員からの問い合わせにも対応できる体制とした。本年以降、更に事務局の機能強化を図る予定である。

7. 卒業記念パーティの主催 (ほぼ達成)

現行役員会には、パーティを主催するほどの実行力なきため、パーティを主催する学友会に資金援助し、新会員の同窓会への理解を深める場として活用することとした。

8. 昭和62年度から平成元年度同窓会役員の構成 平成元年度(10月8日現在)

名誉会長	本多 波雄	学長
顧問	高木 章二	1系助教授
	寺嶋 一彦	2系講師
	並木 章	3系助教授
	中川 聖一	4系助教授
	小松 弘昌	5系教授
	渡邊 昭彦	6系助教授
	氷鉤揚四郎	7系助教授
	西村 政人	8系講師
会 長	西澤 一	(3系2期, 7年目)
副 会 長	鈴木 伸治	(6系3期, 6年目)
副 会 長	安藤 智明	(6系4期, 5年目)
事務局長	江崎 尚和	(2系1期, 3年目)
事 務 局	奥山 徹	(5系1期, 2+1年目)
	橋爪 進	(2系7期, 2年目)
	福田 耕治	(2系7期, 2年目)
監 事	西野 達也	(2系3期, 6年目)
会計担当	鈴木 伸治 (兼任)	
	小山 利浩	(6系5期, 4年目)
編集担当	安藤 智明 (兼任)	
	生田 浩之	(2系4期, 5年目)
	野村 得之	(3系4期, 5年目)
	後藤 康男	(5系4期, 3年目)
企画担当	近藤 秀範	(2系5期, 1年目)

■同窓会中期事業計画

1. 会員名簿第2号の発行（平成2年4月）

(1)登録データベースを最大限に利用し、名簿編集費用を低減する。

従来は、データベース出力（テキストファイル）を写植機にコンバートし、特殊文字をオペレータが手入力で修正していた。問題点は、データベースの有効利用が不十分で、コスト低減に役だっていないこと（写植機の使用コストが高いこと、手入力による修正が、コストアップ要因であること）である。

第2号からは、写植機を利用せず直接コンピュータの出力を版下とし（出力にはレーザープリンタを利用する）、手作業の必要な特殊文字の修正は、行わない（データベースからの直接出力であるから、そのコンピュータで外字登録すれば、手入力を行わなくても処理できる）ことにする。

(2)勤務先別の索引を追加する（名簿第2号へ採用可否を検討中：注1）。

勤務先をコード化してデータベースに登録、勤務先別の索引を作成する。先輩、後輩の便宜を図ることで、会員名簿の利用価値を増す。

2. 会計システムの整備

(1)入会金、年会費未納会員リストの完備

所定の猶予期間（例えば2年）後は、基本的に未納会員への会報、名簿の発送は停止する。未納会員への発送継続は、きちんと会費を納入している会員への負担増加を意味するので、会員間の不

公平を作り出すものと理解する。

猶予期間2年の場合、'87年（昭和62年度）会費未納会員への会報、名簿発送は、本年（'89年）より停止する。この処置に対応するため、名簿管理プログラムを改良する。

(2)年会費の一括納入の検討

詳細は、今後役員会の審議をへて、決定したい。5年分、10年分の一括納入制度を設け、納入の手間を軽減し、会員の皆さんの納入忘れによる、発送停止等のサービス低下を防止する。

(3)卒業時、入会金未納入者のフォローをする。

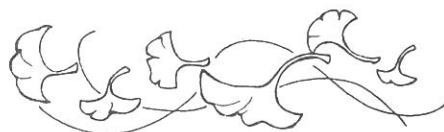
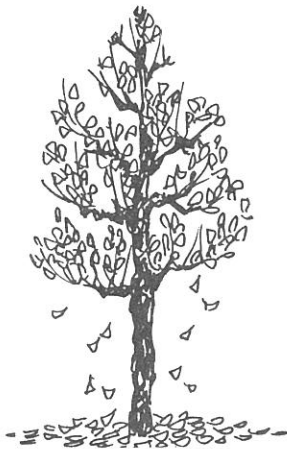
徴収もれ会員へは、6月末までに帰省先宛に入会案内、入会金振込用紙を送付する等を検討する。

(4)会報、名簿への広告募集を積極的にすすめる。

新規に、このテーマ選任の担当役員を設定し、確実に進める。会報編集費の約40万円を目標として、広告費の積み上げを目指したい。従来、大学の就職担当からの働きかけを中心としてきたが、成果なきため、アプローチ法を見直すこととする。会報第7号への広告応募は2社、広告収入は10万円となる予定。

3. 会報の充実

従来、会報の内容としては、新規卒業者（卒業後約1年半から2年経過しているが）の名簿、学内近況報告、会員の投稿、役員会からのおしらせ等で構成していたが、記事の中心と考える、会員からの投稿が、近年、一定して減少傾向にあり、（会報5号：14人、6号：5人、現在編集中の7号では：3人）このままでは、会報としての魅力が半減してしまう恐れあり。新たな企画等、早急に対応策を立案する必要がある。



* 年会費納入のお知らせ *

会則改正に従い、下記のように年会費の納入を開始しておりますので、御協力下さいますようお願い申し上げます。尚、当年度内に会費納入無き場合は未納会員として登録され、以後会報、名簿等の発送は会費納入まで停止いたします。

納入方法 …以下のいずれかの方法でお願いします。

- ①銀行等の金融機関により下記まで御振込下さい。
 (住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号368127
 豊橋技術科学大学同窓会
 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1 豊橋技術科学大学内)

同封の振込用紙により住友銀行支店にて御振込の場合は振込手数料は不要です。(手数料は本会負担)

他の金融機関にて御振込の場合は**振込手数料は振込人本人の負担**となってしまいますので予め御了承下さい。

- ②郵便局にて下記まで御振込下さい。用紙は郵便局備え付けの払込通知票を使用して下さい。
 この場合も払込料金は加入者(本会)の負担となります。

(口座番号 名古屋6-17220
 加入者名 豊橋技術科学大学同窓会)

いづれの場合にも振込人の氏名の欄あるいは通信欄に**会員番号も記入**して下さい。

※会計の事務処理上、**1990年3月末日**までに振込みをお願い致します。

同窓会年会費納入額は、下表を参考をお願いします。

卒業・修了年	昭和62年度 (1987年)	昭和63年度 (1988年)	平成元年度 (1989年)	平成2年度 (1990年)
昭55年3月卒業 昭56年3月卒業 昭57年3月修了 昭57年3月卒業	1700円	1000円	1000円	1000円
昭58年3月修了 昭58年3月卒業	900円	1000円	1000円	1000円
昭59年3月修了 昭59年3月卒業	既納(入会時)	1500円	1000円	1000円
昭60年3月修了 昭60年3月卒業	既納(入会時)	1500円	1000円	1000円
昭61年3月修了 昭61年3月卒業	既納(入会時)	900円	1000円	1000円
昭62年3月修了 昭62年3月卒業	既納(入会時)	既納(入会時)	1000円	1000円
昭63年3月修了 昭63年3月卒業	在学中	既納(入会時)	既納(入会時)	1000円
平元年3月修了 平元年3月卒業	在学中	在学中	既納(入会時)	既納(入会時)

既納(入会時)：入会時にお納め頂いた5000円には、入会金3000円その他2年分の会費2000円が含まれています。

同 窓 会 収 支 報 告

項目	年度	昭和61年度		昭和62年度		昭和63年度	
		予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
繰 越 金		5052615	5052615	3842181	3842181	3417182	3317558
入 会 金		1150000	825000	1200000	820000	1200000	955000
年 会 費		0	0	465000	174000	603800	160800
広 告 代		0	0	200000	0	200000	50000
利 息		0	118470	100000	143969	0	0
名簿、十年史売上		1900000	1660730	0	0	0	0
小 計		3050000	2604200	1965000	1137969	2003800	1165800
収 入 合 計		8102615	7656815	5807181	4980150	5420982	4483358
会報編集印刷発送		1030000	721810	1000000	720942	1018220	503200
会員名簿印刷発送		1650000	949100	0	0	0	0
十年史印刷、発送		550000	1151955	0	0	0	0
通 信 費		80000	46020	80000	60030	50000	28434
事 務 用 品		0	22060	0	0	30000	62394
設 備 費		700000	634780	700000	684520	480000	386900
人 件 費		250000	177870	350000	60500	240000	173500
役 員 会 経 費		160000	25819	160000	7500	78000	1060
交 通 費		0	55020	0	29100	0	4300
卒業記念パーティ		100000	30200	100000	100000	100000	100000
そ の 他		20000	0	0	0	0	0
支 出 合 計		4540000	3814634	2390000	1662592	1996220	1259788
残 高		3562615	3842181	3417181	3317558	3424762	3223570

同 窓 会 平 成 元 年 度 予 算 案

	項 目	金 額	詳細・備考
	収 入	前年度より繰越	3223570
入 会 金		1150000	230人分
年 会 費		240000	平成元年度より50%増(目標)
会 報 広 告		100000	2社*5万円
名簿2号売上		0	(売上収入は、平成2年度)
利 息		120000	従来実績
入	小 計	1610000	
	合 計	4833570	
支 出	会報編集印刷	500000	(支出計上は、平成2年度)
	会報発送	450000	
	名簿2号印刷	0	
	通 信 費	30000	
	事 務 用 品	25000	
	設 備 費	150000	
	人 件 費	260000	
	役 員 会 経 費	25000	
	交 通 費	50000	
卒業記念パーティ	100000		
そ の 他	20000		
支 出 合 計	1610000		
残 高 (予定)	3223570		

* 同窓会会員名簿第2号注文の御案内 *

会員名簿第2号が、いよいよ'90年4月末(予定)に発行されます。すでに、皆様には購入申し込みカードを送付しお知らせ致しておりますが、10月8日現在約500部の予約注文で採算ベースの1000部を大きく下まわっておりますので、注文下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

尚、購入申し込みカードは、会員の皆様のデータ収集を兼ねておりますので、購入されない方も、記載事項をもれなく記入の上必ず返送下さい。

また、購入申し込みカードを紛失された方は、巻末の会員カードの通信欄を利用するか、右記宛に葉書きにて御連絡下さい。

〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学内
豊橋技術科学大学 同窓会事務局
同窓会会員名簿 係

価格 2,000円

「 熱意ある
同窓会スタッフ
を求めます 」

応募資格：TUT修了・卒業の方

(名古屋、豊橋近郊)

勤務：年3回程度の会議

及び自宅での作業(約30hr/年)

待遇：同窓会規定により優遇

交通費支給

問い合わせ先：TUT同窓会事務局

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学学部卒業生で同大学大学院修士課程に在籍していない者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学大学院および同大学学部在學生
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職又は退職教官で、役員会において推薦された者
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する者で、役員会において推薦された者

第4章 役員

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉会長 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名
 (4) 理事 若干名
 (5) 監事 2名
 (6) 評議員 各系各期1名
 (7) 顧問 若干名

- 第7条 役員を選出は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 会長は、正会員のうちから役員会により選出する。
 (2) 副会長及び監事は、正会員のうちから会長が推薦する。
 (3) 理事は、正会員のうちから評議会が推薦した者及び会長の委嘱による若干名とする。但し、理事の過半数は正会員でなければならない。
 (4) 評議員は正会員各系各期より1名推薦された者に会長が委嘱する。但し、各系各期は原則として学部卒業の時点でグループ分けするものとする。
 (5) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員で役員会において推薦された者とする。

- 第8条 会長及び副会長の任期は3年とし、他の役員の任期は2年とする。但し、留任を妨げない。なお、任期終了後も、後任者が決定するまでは、その職務を継続する。

- 第9条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、庶務、会計及び会報等の編集事務を処理する。
 4 監事は、本会の財産及び会計を監査する。
 5 評議員は、重要な会務に参与する。
 6 名誉会長及び顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて総会及び役員会に出席し、意見を述べることができる。

第5章 総会

- 第10条 総会は、定期総会及び臨時総会とし、会長が招集する。
 2 定期総会は、3年に1回10月に開催することを原則とする。
 3 正会員の100名以上が、会議の目的事項を示してその開催を請求したとき。
 4 会長は、総会を招集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第11条 総会は、次の事項を審議し、議決又は承認する。
 (1) 事業計画及び収支予算
 (2) 事業報告及び収支予算
 (3) 会則の制定・改廃
 (4) その他、同窓会の運営に関し、重要な事項

- 第12条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは議長が決める。但し、会則の改廃は、出席正会員の3分の2以上の承認を必要とする。

- 第13条 総会の議長は、その都度正会員のうちから選出する。

第6章 役員会

- 第14条 役員会は、第6条第2号から第5号までの役員により構成する。
 第15条 役員会は、会長が招集し、次の事項を審議する。
 (1) 総会で決定された事業
 (2) 総会への事業報告及び決算報告
 (3) 総会に提出するその他の議案
 (4) 特別会員及び賛助会員の推薦に関すること
 第16条 役員会の議決は、役員会を構成する役員の過半数が出席し、その過半数の同意を必要とし、可否が同数のときは議長が決める。但し、出席できない役員は委任状をもって出席役員に議決を委任することができる。
 第16条の2 役員会の議長は会長が務める。

第7章 会計

- 第17条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄附金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じて、総会の議決により、臨時費を徴取することができる。
 第18条 本会の会費は次のとおりとする。

- (1) 入会金 3,000円
 (2) 会費 1,000円
 2 会費の納入は正会員のみとする。
 3 正会員もしくは準会員として初めて本会に入会するときには、入会金及び初期2年分の会費を納入する。

- 第19条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が卒業もしくは修了以前に学籍を離れた場合に限り、半年以内に請求があれば返納する。

附則

- 正会員は、3年目から年会費を納付しなければならない。
 本会則は、昭和61年10月12日から施行する。
 第20条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

第8章 雑則

- 第21条 本会則施行に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

附則

- 1 本会則は、昭和58年10月9日から施行する。
 2 会員は、住所、氏名、職業を変更の都度、すみやかに本部に通知しなければならない。

編集後記 . . . 編集長のひとりごと

同窓会報第7号をお届けします。すでに4回目の編集で作業にも慣れ、投稿が少なかったせいか、比較的順調に進み、今回はなんとか年内発送に間に合いそうです。

毎年毎年、会報の編集作業に携わるたびに、ふつとどうしてオレがこんなことを…、とつくづく自分の人の良さに呆れたりします。でも、依頼した原稿が届いて「御苦労様」の一言が添えられていたりすると、少しはやりがいみたいなものを感じます。

しかし、このところ返送される原稿は減り続け、今回は116通依頼して、わずかに4通（うち1通は辞退の申し出）でした。さらに、広告の依頼については、全ての方にお願ひしても、1社増えただけで（これも会報によるものかどうかは不明）、効果はなし。その他にも、投稿、質問箱、インフォメーション等の企画に対しても、これといった反応もなく、ガマン強い私も、怒り心頭の今日このごろです。

石を川面に投げれば、「ポチャン」と音がして、水紋が広がります。人が何かを行うのは、反応・成果が得られるからであり、（自分1人のカラにこもって、自己満足の世界に浸る行為は別として）、リアクションのない今の状態はまるでブラックホールを相手にしているような感じがします。

会員諸氏のリアクションを期待しておりますが、このままの状況が続きますと、次の会報は学内近況報告と名簿のみという味気のないものとなることでしょう。さア、原稿を依頼された人は、今すぐペンを手に何か書いて返送して下さい。締め切りを過ぎても、いつでも受け付けます。

なんか、グチぼくなってしまいましたが、最後に、（多分、この会報を手にする頃は新年を迎えていることと思います）本年も会員諸氏のより一層の御活躍をお祈り申し上げます。